

高校生定住志向アンケートを受けた市の見解等について

進学について

(P 3 ~ P 4)

- 県内への進学が多い (78.1%)。専門学科のほうが普通科よりもその傾向が強い。
- 進学先については、普通科では四年制大学、専門学科では専修・各種学校の割合が高い。また、男性は四年制大学、女性は専修・各種学校の割合が高い。

就職について

(P 7)

- 就職先の地域については、県内(市外)が半数程度で、市内への就職は 7.0%。
 - 専門学科は普通科に比べ、市内に就職する割合が高い。
- (P 9)
- 県内(市外)への就職を希望する理由は、「希望する業種・職種が県内(市外)にある」の割合が最も高い。
 - 進学先を卒業後、就職する際に希望する業種は保育士、看護師、美容師といった資格を必要とする職種が多い。

(P 11)

- 県外への就職を希望する理由は、「都会で暮らしてみたい」、「地元を離れて一人暮らしがしたい」割合が高い。

(P 14)

- 就職において重視する点については、「安定していること」、「給料がよいこと」、「自分のやりたい仕事(職種)ができること」の割合が高い。

(P 16)

- 進路の検討開始時期については、2年生が最も高く、1, 2年生で約80%の生徒が進路の検討を開始している。

(P 18)

- 進路を相談する相手については、母親が最も高く、次いで担任の先生の割合が高い。父親についても男性や1年生の段階では、割合が高い。

(P 20)

- 職業観については、「楽しく働きたい」の割合が最も高く、「収入さえあればよい」の割合は低い。

本市の認識と見解

- 就職先については、県内(市外)が半数程度であり、また就業観として「自分の能力や専門性を活かせること」「やりたい仕事ができること」を重視する割合が高いことから、求職者のニーズを更に深く掘り下げて把握・分析を行い、それらに基づいた雇用対策を進めていく必要がある。

- また、県内での就職であれば、本市から通勤するという選択肢も考えられるため、本市に「住みたい」「住み続けたい」と思っただけのような、本市の住みよさの向上に向けた取組を総合的に進めていく必要がある。

- 1・2年生の時期に約8割の生徒が進路の検討を開始し、その相談相手は母親や担任の割合が高く、また職種として保育士、看護師の希望が多い。このため、今後の取組については、これらの傾向を踏まえた上で、市内就職の促進に向けて、市内企業や高校との連携を検討する。